



地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！新青森



2023年2月20日(月)
第40号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校

高大連携事業

協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター



JR 東日本のニュースリリースによると、Suica が使えるようになるのは奥羽本線の青森－弘前間の10駅です。新青森、青森、弘前の3駅は一般的なIC対応自動改札機、その他の駅は簡易 Suica 改札機が設置されます。ただし、この10駅の間での行き来にだけ使用でき、ほかのJR 東日本路線との行き来には使えません。

Suica は2001年に首都圏で導入されて以来、全国各地に使用エリアが拡大されてきました。青森県内では、特に2010年12月の東北新幹線全線開通・新青森駅開業からコンビニエンスストアなどを皮切りに利用可能

奥羽本線・青森－弘前間

Suica 5月から使用可能に

新青森駅を含む奥羽本線の青森－弘前間で5月27日(土)からSuica が使えるようになります。青森県内のJR 東日本路線ではこれまでも新幹線でeチケットサービスが利用できましたが、在来線でも利用できるようになり、利便性が大きく向上します。

な店舗が増えました。

2022年3月には青森市営バスで、Suica と相互利用可能な地域連携ICカード「AOPASS」(アオパス) が使えるようになり、JR 東日本の在来線での導入が待たれていました。2月下旬には、青森市と津軽一円を走る弘南バス(本社・弘前市)が地域連携ICカード「MegoICa」(メゴイカ)のサービスを開始予定で、新青森駅を起点とした移動がぐんと便利になります。

5月27日には若手県民の東北本線・田沢湖線・釜石線の一部、秋田県の奥羽本線・羽越本線の一部と男鹿線

でもSuica のサービスが始まります。

Suica について、また、今回のサービスの詳細は、JR 東日本ホームページをご覧ください。

★Suica

★サービスの詳細



「駅からハイキング」活動を「あおもり創造学」で紹介

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく④



【写真・青森県教育委員会提供】

青森県立青森西高等学校の「青西おもてなし隊」の生徒らが1月28日、青森市の青森県総合社会教育センターで開かれた『「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム成果発表会』に参加し、新青森駅を舞台に実施された「学生駅からハイキング」のコース設定事例について報告しました。

成果報告会は、青森県教育委員会が実施している「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」の一環として開かれました。郷土に対する愛着や誇り、地域への貢献意欲を育てるため、「総合的な探究の時間」や課題研究を通じて、地元を理解を深める

ことが目的です。

青西おもてなし隊は篠崎莉子さんと田中美妃さんが成果をまとめて報告しました。江戸時代後期の文人・菅江真澄が紀行文に記した青森西高校や新青森駅一帯の様子に関する勉強会を開いた後、新青森駅を起点とした「江戸時代の紀行家『菅江真澄』と三内丸山遺跡」コースを設定、実施に至った経緯を紹介しました。

一連の活動を通じて、郷土の魅力を発信するとともに、自らも地域の歴史的価値に対する認識を新たにしたい、郷土の魅力を伝え青森を選択(セレクト)してもらおうこと」の大切さを強調しました。

あおもり新幹線研究連絡会

「人口減少×新幹線」テーマにフォーラム

新幹線開業が地域に及ぼした変化や在来線の将来像などの調査結果を報告する新幹線フォーラム『人口減少×新幹線』社会の再デザイン－八戸開業20周年・札幌延伸と在来線の行方(青森学術文化振興財団助成事業)が1月21日、青森駅前の「あおもりスタートアップセンター」で開かれました。

フォーラムは青森大学柳引研究室と青森中央学院大学竹内研究室、青森商工会議所などが主催する「あおもり新幹線研究連絡会」が主催しました。ネットと同センターをつなぐ「ハイブリッド形式」で行われ、会場には富山市や函館市からの参加者を含め約20人、オンラインでは札幌市、仙台市、東京都、長野県松本市、金沢市、福井市、鹿児島市などから約25人が参加しました。



三内丸山遺跡

「縄文の埋葬」めぐる企画展 「冬祭り」盛況、西高生ボランティア活躍

特別史跡・三内丸山遺跡で3月12日（日）まで、企画展「三内丸山遺跡の埋葬」とミニ企画展「あらたにわかった三内丸山遺跡の出土品」が開かれています。遺跡からはこれまで3種類の墓が見つかっています。大人の墓である楕円形の「土坑墓」は約400基、土器を棺にした子どもたちの墓「埋設土器」は約900基が確認され、ともに縄文時代前期～中期の円筒土器圏では一般的な墓といえます。

さらに三内丸山遺跡の集落最盛期の縄文時代中期中ごろから後半には、土坑墓の周りに石を円形に配置した「環状配石墓」が造られ、約30基が見つかっています。企画展では、これらの墓の特徴や集落内の場所、墓に入っていた副葬品などから、当時の暮らしや生者と死者のつながりに迫っています。ミニ企画展は未公開の出土品、発掘後の分析や整理作業で興味深い発見のあった出土品を紹介しています。



ウルシが塗られた骨製の甕、周囲をのこぎりのようにギザギザにした石の鎌、高さ85cmもの縄文時代前期の円筒土器などが目を引きまします。

三内丸山遺跡では2月4・5の両日、「三内丸山縄文冬祭り」が開かれました。5日は青空が広がり、多くの親子連れがそり滑りに歓声を上げたり、雪中リングの親子や縄文体験スノーハイクを楽しんだりしていました。ボランティアとして参加した青森県立青森西高校1年の木立卓月さん、大柳明さんは縄文ファクションを体験するコーナーを担当し、笑顔で着付けなどに活躍していました。



美術館堆肥化計画

青森県立美術館で4月16日（日）まで、地域アートプロジェクト「美術館堆肥化計画2022」の「成果展示」が、コレクション展2022-4の特別展示として行われています。2022年秋から青森県南部地方（県南地域）の三沢市、六ヶ所村、新郷村で展開してきた現代アート作品の展示や同館のPR展示を通じて、アートと地域をつなぐ美術館の新たな役割を提示しています。美術館堆肥化計画は、地域や暮らしとアートの関わりを「作物」に、美術館の活動を「堆肥」になぞらえて2021年度に3カ年計画で始まりました。

初年度の津軽地方に続いて、2022年度は「縄文」「記憶」「歴史」をキーワードに、PR展示「旅するケンピ」



見学時間 9:00～17:00（入場は開館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）



お問合せ
〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-9282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimariyama.pref.aomori.jp>

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシードル（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
→ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシードル（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

＜ネット情報＞

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・楡引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いいたします。

アートと地域つなぐ成果報告

と現代アート作品展示・オンライン勉強会「耕すケンピ」を実施してきました。

コーナー入り口には新郷村の「キリストの墓伝承」にちなんだ木箱製の“棺桶”（写真左下）、道路脇に展示された案内板のパネルなどが並びます。

三沢市関連では、市内にある縄文時代の野口貝塚から出土した貝殻と市教育委員会が収蔵している神棚、そして「昭和三陸津波」の50周年記念誌（1983年）、東日本大震災の被害を記録したパンフレットが組み合わされて展示され、時を超えた人と海との関わりを考えさせられます（写真中）。

六ヶ所村関連で目を引くのは写真家・田附勝の作品群です。村内で出土した縄文土器が、1960年代末の学園紛争を伝える地元紙・東奥日報の上に並ぶ1枚は「縄文」「記憶」「歴史」が交差する光景を生々しく伝えてきます（写真右）。



青森県立美術館

治に活躍した絵師・考古学者の蓑虫山人に関するオンライン勉強会から生まれた展示コーナー「#蓑虫山人を手さぐる」です。蓑虫山人の県下での滞在の様子を記録した150枚余りの絵日記から成る「写真」（個人蔵）には、



安田講堂残し占拠排除1969年（昭和44年）1月19日 東奥日報（撮影：2022年5月18日 青森県六ヶ所村） ©TATSUKI Masaru

現在のSNS投稿に通じるところがある－という気づきのもと、本作に描かれた風景や宴会の様子から地名や単語を拾い、それらをもとにハッシュタグをつけて“解説”する試みです。

担当した奥脇高大学芸員は「作品を展示し解説する、という従来の美術館を超えた価値や営みをつくりたい」と話しています。

詳しくは2次元コードから青森県立美術館ホームページの特設ページをご覧ください。



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

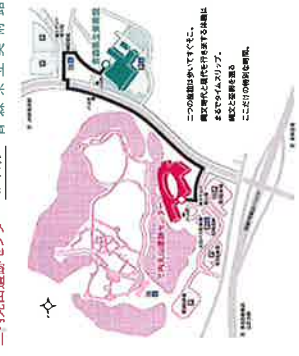
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替え等により変更する場合があります。

観覧料 一般510円（410円）／高校・大学生300円（240円）／小学生・中学生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）



お問合せ
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>

縄文と芸術



三内丸山遺跡センター



お問合せ
〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-9282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimariyama.pref.aomori.jp>